

巻頭言

工作技術センターへの期待

工学研究科長 濱 裕光（ひろみつ）



所属：工学研究科 電子情報系専攻

専門分野：画像工学（画像処理・理解・検索、ITS）

趣味：お酒を少々

工作技術センターは、1984年の開所以来、来年2009年には25周年を迎えます。センターは機械工作部門とガラス工作部門から構成されており、優秀な技術スタッフと教員の協力により、市販品にはない様々な工夫を凝らした独創的な各種実験機器や装置が日々製作されています。ここ数年の工作技術センターの利用状況を見ると、機械工作、ガラス工作ともに着実に増えてきており、研究支援部門として研究を陰で支える重要な役割を果たしてきました。知の創造と継承を使命とする大学においては、今までもそうであったし、これからもそうであり続けるとは思いますが、常に創意工夫が求められます。世界的レベルの論文誌に掲載されるような独創的な研究も最初は手作りの装置から手探りでスタートします。一人の研究者の力では到底不可能な装置が、多くの方々の協力により出来上がっていき、最後には研究成果として結実します。お仕着せでない創造的研究スタイル、伝統的に常に新しいことに取り組む姿勢、進取の気性があるからこそ可能になったことです。そこに参加した学生、大学院生にとっては教科書だけでは決して学べない貴重な体験を積むことができます。このような研究開発のための具体的・実践的なモノ作りの経験を持つ人材を輩出することは教育機関としての大学が持つ役割の一つです。

一方では、大阪市の財政状況は厳しく、運営交付金も減少の一途を辿っています。日本全体の景気回復も期待薄で、未だに好転の見通しは立っていません。財政難の中で研究のための外部資金の獲得が要求されています。とは言っても、現有するセンターの機器の保守・点検・更新および大型特別設備の新規購入にこの資金を使うことは出来ず、一段と大学内外からのご理解とご支援が不可欠となります。また、各種委員会の取組みとして、研究成果や技術サポート、利用者からの投稿記事などを掲載したセンターレポート「ファブリカ」を毎年刊行し、教職員の講演をお聞きするセンター談話会および懇親会からなる「火の祭」も毎年開催しています。このような機会を通じて利用者の教員・学生と技術スタッフとの交流がますます深まること、今後より開かれた研究・教育支援機構としてますます発展していくことを期待しております。